

自己点検・評価報告書

日本語教育機関名：与野学院日本語学校

点検・評価実施日：2019/1/29

実施責任者：校長 谷 一郎

実施担当者名(役職)：教務主任 大知里 弘美、事務長代行 花田 涼

<総論>

昨年度に比べて、さらに規程の整備も進み、規程を運用するなかで見つかった改善点も、即、規程の改訂として反映されるようになり、規程に基づいた運営が軌道に乗った。しかし、一部にまだ不十分なところが残ることから、引き続き改善に努めていく予定である。

<教育の理念・目標>

理念は、教員会議、校内での掲示を通じて、十分に周知されている。

<学校運営>

規程に基づいた運営は進んだが、中長期の運営計画、年度予算計画については、入管行政の激変により、前提が大きく変わってしまい、計画の策定に至らなかった。2019年度においては、最悪の状況を踏まえた中期計画の策定を行う。

<教育活動の計画、実施>

理念、教育目標に基づいた教育体系の規定化により、2018年度は、安定した教育活動が実施できた。社会の変化に応じてさらに教育活動の改善を行っていく。

<成績判定と授業評価>

成績判定、進級や卒業認定の体系化により、生徒の動機付けが促進され、学習成果も昨年度より向上した。

<教育活動を担う教職員>

教員の評価体制に比べ、職員の評価体制の整備が課題であったところ、2018年度の新入職員をモデルに課題の抽出を行い、評価の仕組みは整った。2019年度においては、評価の実施を行い、改善に努めたい。

<学修成果>

教育成果の判定は、適切に行われており、進路の把握も漏れなく行われている。無冠で卒業する生徒の数も減り、一層の質の向上が期待されていたが、入管政策の変化により従来の学生募集スタイルが維持できなくなっており、それによる教育成果の低下が懸念されている。

<生徒支援>

適応、生活、進路、在留等の支援は、概ね十分にできている。2017年度以降、危機管理体制の整備が課題のままであり、引き続き2019年度の課題とする。

<進路に関する支援>

進路指導は、体系的に行われている。

<入国・在留に関する指導及び支援>

入国・在留に関する指導は、丁寧に定期的に行われているが、不慣れな地域からの募集において、不法残留者が発生、また、想定していなかった薬物犯も発生してしまい、オリエンテーションの改善を行った。

<教育環境>

教育環境については、概ね問題はない。

<入学者の募集と選考>

学生募集は、概ね問題なく行われているが、不慣れな地域(ミャンマー)からの募集において、不法残留者が発生してしまったため、当該国については、選考の基準を厳格化した。

<財務>

財務状況については、とりたてて問題はない。

<法令遵守>

コンプライアンスに関しては、2017年度に法令遵守の推進体制を定め、現在も推進を行っているところである。

<地域貢献・社会貢献>

地域の交流行事には積極的に参加し、かつ地元の日本人を学校に招いて生徒との交流を深めてもらっている。同時に地域の日本語教育においても、一層の役割を果たすべく、地域の学習者向けに、入門レベルのコース(認定外)を設置し、準備を進めている。